

■ 2003年12月31日(水曜日)



今年4月、全国に先駆けて、政策に具体的な数値目標と期限を入れたマニフェスト「福井元気宣言」を掲げ、「元気な産業」、「元気な社会」、「元気な県土」、「元気な県政」の4つのビジョンを柱とする西川県政がスタートしました。

西川知事は、「リーダーシップ」、「フレンドシップ」、「パートナーシップ」の「3つのS（シップ）」を県政運営の基本方針とし、成果主義、顧客主義、事後評価の観点から県庁の組織を大胆に見直すなど、「福井元気宣言」の実現に向けて、スピーディーな県政運営を進めてきました。

「県政フラッシュ」では、「福井元気宣言」の4つのビジョンに沿って、平成15年の県政をご紹介します。

元気な産業

本県産業の活性化に向けて

厳しい経済、雇用情勢に対応するため、本県経済社会の活性化を最優先課題と位置付け、本年7月に「経済社会活性化戦略会議」を設置し、12月7日に提言を受けました。

県では、これを踏まえ、提言を施策レベルに具体化したプラン「挑戦(チャレンジ)ふくい」をとりまとめました。今後、平成16年度当初予算編成において具体化を図り、迅速に実行に移していきます。

また、地域経済の担い手である県内企業を資金面からバックアップするため、新しい制度融資を設けました。



経済社会活性化戦略会議

雇用面では、雇用の創出に努めるとともに、創出された雇用の定着化に向けて「緊急地域雇用促進奨励金事業」を創設しました。

このほか、県内中小企業の県外での販路開拓や新たな創業を支援するため、福井県ビジネス支援センター「南青山291」の利用料金の大幅な引き下げや、県庁1階に経営相談ブースを開設するなどの体制を整備しました。

安全で安心な県産農林水産物の供給

食の安全に対する県民意識の高まりに応え、コメ、青果物、畜産物、林産物、水産物の5部門ごとに生産から流通・消費に至るまでの履歴情報を消費者に提供する「トレーサビリティシステム」の構築を推進しています。

まず、12月から牛肉の運用が開始され、インターネットや店頭モニターで生産や流通履歴などの情報を消費者が分かりやすく知ることができるようになりました。

また、毎月第3日曜日を含む金・土・日の3日間を「とれたてふくいの日」とし、「ふくい産をふくいで食べよう」という地産地消運動を積極的に展開しました。

このほか、県民の皆さんの声を取り入れ、女性や熟年農業者の活動を支援する補助事業を予算に反映させるなど、積極的に農林水産業の振興を図りました。



牛肉のトレーサビリティシステム店頭モニター

元気な社会

女性の元気が福井の元気

女性の持つ優れた感性や発想を県の施策に反映させるとともに、女性自身の自主的な活動を支援するため、県内各界各層の女性60名の参加を得て、「福井女性会議」を設置しました。

現在、3つのブロックで会議を開催しており、いただいた提言についてはできる限り県の施策に反映していきます。

また、子育てと自己実現のための活動が両立できる環境づくりの一環として、乳幼児連れの利用者が見込まれる施設に、授乳やおむつ交換のできる「まちなかキッズルーム」の整備を支援しました。

さらに、小児医療について、県立病院など5カ所の病院が輪番制で小児科の専門医を夜間常駐させ、急な入院加療が必要な子供に対して的確な治療が行える救急医療体制を整備しました。



まちなかキッズルーム

学校教育の充実

——福井の未来を担う人材の育成に向けて

快適な学習環境の整備を図るため、県立高校の普通教室に冷房設備の整備を進めました。

児童・生徒の学力向上を目指すため、昨年度実施した学力調査の結果を踏まえ、弱点克服のためのドリル学習の実施や英会話セミナー実施校への支援を行いました。

また、教員の指導力向上を図るため、予備校の講師から教材の作り方や指導方法などを学ぶ講座を開催しました。

平成16年度から実施する県立高校の学区および学校群制度の廃止に伴う新規入学者選抜制度については、新制度への移行が円滑に行われるよう、生徒や保護者を対象に説明会を開催するなど、正確な情報の提供に努めています。

このほか、保護者や地域住民が学校運営などに主体的に参画する「福井型コミュニティ・スクール」に県内の小・中学校3校をモデル校に指定し、本県にふさわしい学校運営のあり方について検討を進めています。



英会話セミナー（福井市湊小学校）

元気な県土

北陸新幹線の着工実現に向けて

県民の長年の悲願である北陸新幹線の早期整備を県政の最重要課題として、全力で取り組みました。

県議会、市町村、経済界と一丸となって、国および関係機関に精力的に要請活動を行い、南越までのフル規格による一括工事認可と早期整備などの実現に向け、本県の決意と意欲を強くアピールしました。

残念ながら具体的な着工区間や整備期間などの結論は先送りされましたが、「政府・与党検討委員会」において平成17年度予算編成過程で安定的な財源などの検討を行い、基本条件の確認をした上で新しい区間の着工について認可することが決められました。

新幹線の県内着工を実現するためには、これまで以上に県民一丸となって建設促進運動を展開していくことが何よりも重要です。県民の皆さんのより一層のご理解とご協力をお願いします。



北陸新幹線県内着工実現大会

高規格幹線道路の整備促進

本県と関西地方を結ぶ舞鶴若狭自動車道、中部地方を結ぶ中部縦貫自動車道は、本県の発展に必要不可欠な路線です。

3月9日に舞鶴東IC(インターチェンジ)―小浜西IC間が開通した舞鶴若狭自動車道は、現在、残る敦賀までの早期完成を目指し、用地交渉やアクセス道路の整備、敦賀側からの用地測量など、整備促進に向けて全力で取り組んでいます。

県では、日本道路公団および民営化後の新会社において責任を持って早期に計画どおり整備するよう、引き続き強く働きかけていきます。

中部縦貫自動車道については、平成18年度までに福井-勝山間で一部供用開始ができるよう、事業の進捗に全力で取り組むとともに、大野-油坂峠間の環境影響評価の早期実施や整備計画への組入れを国に強く求めています。



大飯高浜IC(舞鶴若狭自動車道)

地域鉄道網の充実

地域の鉄道は、車を運転できない学生やお年寄り、体の不自由な方はもちろん、日常生活の移動手段として重要な役割を担っています。

10月19日に全線開通したえちぜん鉄道の福井駅への乗り入れ方策については、関係機関などとの協議結果や、議会での議論を踏まえ、高架部走行などについて県と沿線市町村との間で12月26日に最終的な合意を行いました。今後、速やかに高架化事業に着手できるよう取り組んでいきます。

嶺南地域では、3月15日にJR小浜線の電化が実現し、小浜線の利用が便利になりました。

また、10月にはJR北陸線・湖西線(敦賀-長浜、近江塩津-永原)の直流化工事が始まり、平成18年秋の開業を目指します。

完成すれば、京阪神圏と敦賀間が新快速電車で結ばれ、京都・大阪をつなぐ鉄道網が完成することになります。



奥越前を走るえちぜん鉄道

原子力発電所の安全確保に全力

11月14日、県の「もんじゅ安全性調査検討専門委員会」から、高速増殖原型炉「もんじゅ」の安全性調査検討報告書が提出されました。これを受けて県は、11月21日、国や核燃料サイクル機構に対して、「もんじゅ」の安全確保対策の強化や原子力・エネルギーに関する研究開発拠点化の推進、地域振興の充実に取り組むよう強く要請しました。

英国BNFL社製MOX(モックス)燃料の検査データの不正問題により、現在中断している高浜発電所3、4号機のプルサーマル計画については、10月23日に、関西電力から海外MOX燃料調達に関する品質保証活動の改善状況について、報告書の提出を受けました。

日本原子力発電所3、4号機増設計画も含め、原子力発電所の問題については、「安全の確保」、「住民の理解と同意」、「地域の恒久的福祉」の原子力3原則を基本に、常に県民の立場に立ち、県民の安全・安心を最優先に、厳正に対処していきます。



敦賀市を中心に実施された原子力防災訓練

元気な県政

県民参加による県政の推進

政策効果を重視し、県民本位の県政を進めるためには、県民の皆さんの積極的な県政への参加が不可欠です。

県民とのフレンドシップ(県民に身近な県政)の一環として、日ごろ県政とのかかわりの少ない人達と知事がひざ詰めで意見交換を行う「座ぶとん集会」を開催し、県民の生の声を県政に活かすよう努めています。

例えば、グループホームに入居する知的障害者の皆さんとの「座ぶとん集会」を通して、知的障害者の方々が地域の中で安心して生活していくためには、グループホームの安全対策などに取り組むことが必要であると考え、国の電源3法交付金を活用し、全国に先駆けて、グループホームの環境改善に要する経費の助成を行うこととしました。

また、予算編成過程への県民参加を全国で初めて実施し、県民から寄せられたご意見のうち反映できるものは予算に活かしまし



座ぶとん集会

た。

生涯学習の拠点である県立図書館・生活学習館とJR福井駅前を無料で結ぶフレンドリーバスの運行も、県民のご意見を施策に反映させたものです。

安全な環境で安心して暮らすことができる社会づくり

「安全・安心な県民生活の実現」を目指し、全国で初めて、県と県公安委員会、県警察本部の3者が共同し、「福井治安回復プログラム」を策定しました。

このプログラムでは、(1)犯罪の増加傾向への歯止め(2)犯罪に強いまちづくり(3)治安基盤の充実・強化、の3つを基本目標に掲げ、本年を「治安回復元年」として、県民、警察、市町村などと連携して、犯罪の発生総量の抑制と体感治安の向上に全力を挙げて取り組みます。

また、県では、全国的に広がる悪質な金融トラブルに対して、「悪質金融被害相談窓口」を開設。専門の法律関係の知識を有する機関や取り締まりを行う機関などと連携し、問題解決に取り組んでいます。



ふくいマイタウン・パトロール隊

家族の早期帰国と拉致問題の早期解決に向けて

北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)に拉致されていた地村保志さん、富貴恵さん夫妻が、ふるさと小浜市に帰郷されて、1年以上が経過しました。帰国された今もなお、親子と一緒に暮らすという当然の願いが叶わない、つらい日々を過ごしておられます。

県では、北朝鮮に残されている子供たちの早期帰国の実現に向けて、国に強く要請するとともに、地村さん夫妻や帰国する子供たちの自立や社会適応を速やかに進めるための「自立支援プログラム」を策定するなど、支援を進めてきました。

11月には、「地村さんご夫妻を励ます福井県民集会」を開催し、拉致問題の早期解決を願う県民の皆さんの気持ちを結集し、北朝鮮に残された子供たちの早期帰国を待つ地村さん夫妻を励ました。

今後とも、国のさらに粘り強い交渉と1日も早い拉致問題の解決を目指し、引き続き、強い要請と働きかけを行っていきます。



地村さんご夫妻を励ます福井県民集会

交流と地域づくりに大きな成果

若狭路博2003メインイベント「水と炎の千年祭」が、9月14日から1カ月にわたって開催されました。このイベントでは、嶺南8市町村が連携し、若狭路の豊かな歴史、文化、祭、食などを全国に発信しました。予想を大幅に超える43万1千人余りの来場者で賑わい、県内への生産誘発額は約69億円に上りました。

また、海外を含め約1万9千人の高校生が参加した文化の祭典「第27回全国高等学校総合文化祭福井大会」が、8月8日から12日まで開催されました。同じ部活動を楽しむ全国の仲間たちが友情の輪を広げ、みずみずしい感性と豊かな創造力を発揮する大会となりました。

こうしたイベントにより、本県の魅力を広く県内外にアピールするとともに、地域の活性化に大きな成果を収めました。



若狭路博2003メインイベント
「水と炎の千年祭」

